



平成28年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会  
第69回全国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

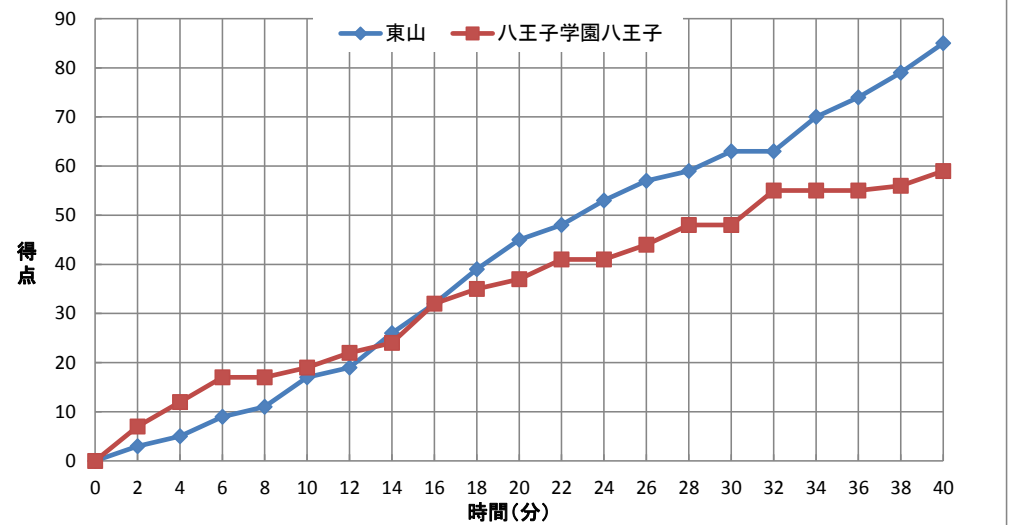
男子 平成28年8月2日 10:00 開始  
3回戦 県立総合体育館大アリーナ F

◎ 東山 (京都府)	85	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>28</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>18</td><td>3rd</td><td>11</td></tr> <tr><td>22</td><td>4th</td><td>11</td></tr> </table>	17	1st	19	28	2nd	18	18	3rd	11	22	4th	11	59	八王子学園八王子 (東京都)
17	1st	19														
28	2nd	18														
18	3rd	11														
22	4th	11														

番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	岡田 侑大	29	0	13	3	3	* 4	根本 拓真	10	2	2	0	1
* 5	山内 佑真	14	4	1	0	2	* 5	オト 輝恵	4	0	2	0	5
* 6	松本 峻典	12	0	6	0	0	* 6	黒谷 瑛太郎	12	1	4	1	4
7	甲谷 勇平	2	0	1	0	0	* 7	ドウドウ ゲイ	17	3	4	0	2
* 8	藤澤 尚之	16	0	6	4	3	* 8	勝田 賢次	12	1	4	1	3
* 9	カロンジ カボンゴ バトリック	8	0	4	0	4	9	渡邊 蓮	4	1	0	1	2
10	鱒 拓真	0	0	0	0	0	10	祐木 晃	-	-	-	-	-
11	太田 和輝	-	-	-	-	-	11	橋田 風真	0	0	0	0	0
12	吉田 優維	4	0	1	2	0	12	木村 圭吾	0	0	0	0	1
13	南 天仁	0	0	0	0	0	13	野村 弘樹	-	-	-	-	-
14	吉田 竜丸	0	0	0	0	0	14	川畑 輝	-	-	-	-	-
15	クラングバヤ モンソンボ クラスティン	0	0	0	0	2	15	ババカル アイダラ ジャロ	-	-	-	-	-
コーチ	大澤 徹也					0	コーチ	石川 淳一					0
Aコーチ	田中 幸信						Aコーチ	平川 啓太郎					
合計		85	4	32	9	14	合計		59	8	16	3	18

主審: 久保知仁  
副審: 鈴木悟

得点経過



CTO	1・2P	3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	19:28	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	7:41	14:12	23:22	33:05	36:33	:	:	:

〔戦評〕  
第1P、東山はハーフコートマンツーマン、八王子はハーフコート2-3ゾーンでゲーム開始。八王子は#7のミドルシュートで先制し、#5の力強いゴール下や#4の3Pで一気に得点をする。しかし、ディフェンスにおいてファウルが重なり、流れに乗りきれない。東山は、#4と#9のハイロープレイなど、スペースをうまく使いゾーンブレイクを試みる。ディフェンスでも持ち前のフットワークを活かしたカバーの速さをみせ、八王子の1対1に対抗していく。八王子のシュート後、しっかりリバウンドを死守し速い攻撃を仕掛ける。そして、繋げた速攻を東山#4、#6が確実に決め、点差を縮めていく。両チーム譲らぬ展開のままピリオドを終える。  
第2P、両チームともに激しい攻防を展開し、点の取り合いが続く。東山はボールを大きく動かし、#5の3P、#4のディフェンスの裏をつくランニングプレイで逆転に成功する。相手の流れを切りたい八王子はタイムアウトを請求。その後、八王子のアウトサイドシュートが冴えわたる。#6の連続得点から、#7が3Pを決め、点差はほぼなくなり、そのままゲームは進む。終盤、東山#4の速攻を八王子#7が豪快にブロックショットするも、リバウンドを制した東山#9がゴール下をねじ込み勢いに乗る。そのまま攻防は続き、終了間際には東山#6がバスケットカウントを決める活躍をみせ、東山がリードを保ち前半終了する。  
第3P、開始より東山#4が巧みな1対1を披露し、八王子の追従を許さない。その後も、#9のゴール下からのパスを#6が確実にシュートを決めるなど、八王子のゾーンディフェンスをアタックしていく。対する八王子は#4、#8が奮闘するも前半の点差は縮まらず、第3P終了。  
第4P、開始直後、八王子が粘りのディフェンスからの3連続得点で底力を見せるも、東山も落ち着いて決め返していく。なんとかボールを奪取したい八王子は東山#8にプレッシャーをかけるも、逆にファウルが重なり相手にフリースローを与えてしまう結果になる。そのフリースローを東山は確実に決め、徐々に点差は開いていく。疲れの見える八王子に対し、東山は交代メンバーも最後まで走り抜き加点をしていく。最終的には東山が大きくリードをしたままタイムアップを迎え、東山が準々決勝に進出を決めた。

戦評: 西尾 友貴 記録: 広島女学院高校